

(別紙4(2))

事業所名 愛の家グループホーム藤枝高柳

目標達成計画

作成日: 令和4年 1月 6 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	ご家族の要望は、2ヶ月に1度の運営推進会議の実施や、意見箱、アンケートや普段のコミュニケーションなどから管理者、外部へ表せ運営に反映できていると考えられる。一方利用者の要望は普段の会話から吸い上げてはいるが、外部へ表せているとは言い難い。	運営推進会議の本来の姿である「利用者、利用者家族、地域住民の代表、地域包括センター、市町村職員に対し、サービス内容を明らかにし開かれたサービスとしサービスの質を確保する」に近づく。	2ヶ月に1度行われる運営推進会議の参加メンバーに一般スタッフや利用者を加える事で、本来あるべき姿に近づき、サービスの質の向上を図りたい。特に事故報告は一般スタッフにとって、施設内の事故検証に加え外部の意見を聴く機会が増える事で、日ごろのサービス提供に反映できると考える。	6ヶ月
2	12	重度化時の指針説明は利用開始時に行い、ご本人、ご家族の意向確認を実施。体調のすぐれない方のご家族とは連絡を密にし現状を伝えご家族のご意向の把握に努めているが、いずれも往診対応の方に限られており、家族が受診されている利用者2名については特に看取り時の対応が不明確である。	重度化した時の指針説明は利用開始時に加え、実際に重度化した時再確認するを継続。往診対応ではない利用者の家族とは更に密な関係を築く事を心がけ、ご本人ご家族が安心してご利用いただける環境を整えつつ、ご本人ご家族の意向把握に努める。	現在の主治医に往診対応ではない方の看取り時対応の確認と共に、ご家族の意向を確認し記録に残しておく。また、コロナ禍で思うような受診ができていない現状を再度ご家族と話し合い、場合によっては往診への変更を提案する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

